✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧

✧　インドネシア国気候変動対策能力強化プロジェクト
現地フォローアップ研修を実施

賛助会員だより（No.68、平成 24 年 11 月）で既報のとおり、JICA が実施する「インドネシア国 気候変動対策能力強化プロジェクト」において、インドネシア気象地象物理庁（BMKG）の気候変動対策に係る能力強化のため、国内研究機関等のご協力をいただき、BMKG 担当者 8 名を招き、日本における研修（本邦研修）を当センターが実施しました。

このたび、本邦研修の内容をフォローアップし、より確実な技術移転を図ることを目的に、12 月 10 日～14 日の 5 日間、ジャカルタの BMKG 本部において、当センターから要員を派遣して現地フォローアップ研修を実施しました。

今回のフォローアップ研修では、「気候モデルのダウンスケーリング」「気候モデルデータを用いた農業への影響評価」の 2 グループに分け（それぞれ 7 名および 6 名）、研修を実施しました。「気候モデルのダウンスケーリング」では、数値予報モデル（WRF モデル）のインストール、気候モデルを初期値・境界値とした気候モデルデータのダウンスケーリングについて、講習（本邦研修の復習）と演習を行い、各研修員 PC 上で一連のダウンスケーリングを実施するための技術移転の確認を行いました。「気候モデルデータを用いた農業への影響評価」では、気候モデル（ハインドキャストデータ）の観測データによる検証、気候インデックスと農業生産量（バリ島の米と豆類）の関係解析、気候モデルデータによる気候インデックスの将来変化について、BMKG が収集したデータにより演習を行い、気候モデルデータと農業生産量の統計的な解析のための技術移転の確認を行いました。

インドネシア気象局は、気象、気候、地象、観測測器・ネットワークの 4 つの部局からなり、本部は屋上にレドームを配置した地上 12 階建てのビルに入っています。ビルの屋上では大型時計が時を刻んでおり、夜にはライトアップされ、比較的大きな建物が少ないジャカルタ市北部では、目立つ建物の一つです。

気象部では、Cisro と呼ぶ数値予報システム（オーストラリア技術援助による）の予測データを地方組織と共有し、約 30 地域に対し、1 日 3 回予報を発表するとともに、波浪予測、インドンネシア域の台風情報等の情報提供を行っています。地象部では、衛星回線などの通信ネットワークを利用し、全国の地震観測データを常時監視しています（ドイツ等の支援による）。そのほか、気候データベースの構築（ドイツの支援）が行われており、来年には予報システムの更新（フランスの援助を予定）が計画されるなど、順調な経済成長とともに、BMKG も急速に進歩を遂げているようです。

次回の現地フォローアップ研修は、2013 年 1 月を予定しています。

（気象業務支援センター振興部）